

## 2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)



2021年2月10日

上場会社名 株式会社アバールデータ 上場取引所 東  
 コード番号 6918 URL <https://www.avaldata.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 菊地 豊  
 問合せ先責任者 (役職名) 総務部ゼネラルマネージャー (氏名) 小木 辰夫 (TEL) 042-732-1000  
 四半期報告書提出予定日 2021年2月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2021年3月期第3四半期の業績 (2020年4月1日~2020年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	6,207	11.2	1,270	26.8	1,333	27.1	967	27.5
2020年3月期第3四半期	5,581	△5.3	1,001	△16.7	1,049	△16.0	758	△14.7
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2021年3月期第3四半期	157.99		—					
2020年3月期第3四半期	124.16		—					

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	18,281	14,668	80.2
2020年3月期	14,824	11,988	80.9

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 14,668百万円 2020年3月期 11,988百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	28.00	—	36.00	64.00
2021年3月期	—	30.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	36.00	66.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2021年3月期の業績予想 (2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,200	4.8	1,580	7.7	1,635	7.3	1,150	3.8	187.75

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2021年3月期3Q	7,417,842株	2020年3月期	7,417,842株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2021年3月期3Q	1,287,811株	2020年3月期	1,297,337株
------------	------------	----------	------------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2021年3月期3Q	6,125,288株	2020年3月期3Q	6,111,388株
------------	------------	------------	------------

（注）当社は、信託型従業員持株インセンティブ・プランを導入しております。当該プランにかかる従持信託が所有する当社株式数については、財務諸表において自己株式として表示していることから、当該従持信託が所有する当社株式数については、「期末自己株式数」に、2021年3月期3Qは10,500株、2020年3月期は16,200株をそれぞれ含めており、「期中平均株式数（四半期累計）」から2021年3月期3Qは13,545株、2020年3月期3Qは22,240株を控除しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、【添付資料】3ページ（3）「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。また、四半期決算補足説明資料は、本四半期決算短信公表後に当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	7
(追加情報) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が続くなか、個人消費などに持ち直しの動きが見られるものの、企業業績や雇用環境の悪化など、依然として大変厳しい状況が続いております。

当社に関連深い半導体製造装置市場は、データセンター需要の増加等を背景に大手半導体メーカーの設備投資が継続し、順調に推移しております。

このような経営環境のもと、当社は、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、在宅勤務や生産部門での作業空間の確保、区域の整理・往来制限などを継続するとともに、顧客満足度の更なる向上のために、市場ニーズを先取りした新製品の投入により、お客様の装置の競争力向上に取り組みました。

この結果、当第3四半期累計期間における売上高は6,207百万円(前年同四半期比11.2%増)、営業利益は1,270百万円(前年同四半期比26.8%増)、経常利益は1,333百万円(前年同四半期比27.1%増)、四半期純利益は967百万円(前年同四半期比27.5%増)となりました。

当社は、事業内容を2つの報告セグメントに分けております。当第3四半期累計期間におけるセグメント別の状況は次のとおりであります。

## ① 受託製品

当該セグメントは、半導体製造装置関連、産業用制御機器および計測機器の開発・製造・販売を行っております。新型コロナウイルス感染症の影響は軽微であり、半導体製造装置関連におきましては、大手半導体メーカーの設備投資が順調に推移しており、また、産業用制御機器の一部顧客に落ち込みが見られましたが、従来顧客の安定的な需要に支えられた結果、計測機器を含め受託製品全般において順調に推移いたしました。

この結果、売上高は3,478百万円(前年同四半期比15.6%増)、セグメント営業利益は608百万円(前年同四半期比46.1%増)となりました。

当該セグメントの品目別売上の状況は次のとおりであります。

## イ) 半導体製造装置関連

当該品目は、半導体製造装置の制御部を提供しております。大手半導体メーカーの一部で生産調整が見られましたが、NANDフラッシュメモリなどが堅調だったことにより、売上高は増加いたしました。

この結果、売上高は2,736百万円(前年同四半期比22.7%増)となりました。

## ロ) 産業用制御機器

当該品目は、各種の産業用装置、社会インフラ関連の制御部の開発・製造を行いカスタマイズ製品として提供しております。新規顧客の売上貢献がございましたが、産業用検査装置で一部落ち込みが見られたことにより、売上高は減少いたしました。

この結果、売上高は502百万円(前年同四半期比10.5%減)となりました。

## ハ) 計測機器

当該品目は、各種計測機器のコントローラ、通信機器の制御部を開発・製造を行いカスタマイズ製品として提供しております。従来顧客の受注が回復したことにより、売上高は増加いたしました。

この結果、売上高は239百万円(前年同四半期比10.5%増)となりました。

## ② 自社製品

当該セグメントは、組込みモジュール、画像処理モジュールおよび計測通信機器の開発・製造・販売と、自社製品関連商品の販売を行っております。新型コロナウイルス感染症の影響は軽微であり、全般的な産業用装置における設備投資は、堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は2,728百万円(前年同四半期比6.0%増)、セグメント営業利益は1,050百万円(前年同四半期比13.1%増)となりました。

当該セグメントの品目別売上の状況は次のとおりであります。

## イ) 組込みモジュール

当該品目は、半導体製造装置、医療機器関連、FA全般、電力・通信関連向けに提供しております。医療機器関連および電力・通信機器関連向けの受注が堅調に推移しておりますが、一部顧客の需要が落ち込んだ結果、売上高は減少いたしました。

この結果、売上高は280百万円(前年同四半期比10.5%減)となりました。

## ロ) 画像処理モジュール

当該品目は、FA全般、各種検査装置、液晶関連機器に提供しております。各種検査装置においては積極的な新製品開発の推進に加え、検査工程の自動化ニーズの高まりから高水準で推移しておりますが、前期比では顧客需要の横ばい傾向により、売上高は減少いたしました。

この結果、売上高は1,045百万円(前年同四半期比1.8%減)となりました。

ハ) 計測通信機器

当該品目は、超高速シリアル通信モジュール「GiGA CHANNEL」シリーズを提供しております。「GiGA CHANNEL」シリーズ関連の検査装置向けの受注が拡大し、売上高は増加いたしました。

この結果、売上高は1,297百万円(前年同四半期比22.4%増)となりました。

ニ) 自社製品関連商品

当該品目は、自社製品の販売促進とシステム販売による高付加価値化を図るため、ソフトウェアおよび付属の周辺機器を提供しております。自社製品関連商品は、自社製品全般同様堅調に推移しておりますが、周辺機器等の需要が伸び悩んだ結果、売上高は前期比では減少いたしました。

この結果、売上高は104百万円(前年同四半期比22.2%減)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第3四半期会計期間末における資産は18,281百万円(前事業年度末比3,456百万円の増加)となりました。

流動資産につきましては、増加要因として、現金及び預金が336百万円、電子記録債権が48百万円、たな卸資産(商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品)が268百万円それぞれ増加となり、減少要因として、受取手形及び売掛金が137百万円、その他として未収入金が16百万円、前渡金が11百万円それぞれ減少した結果、492百万円増加し9,759百万円となりました。

固定資産につきましては、主に、投資その他の資産が投資有価証券の時価変動の影響等により、2,964百万円増加し8,521百万円となりました。

### (負債)

当第3四半期会計期間末における負債は3,613百万円(前事業年度末比777百万円の増加)となりました。

流動負債につきましては、増加要因として、その他に含めている、前受金、未払費用、預り金が185百万円増加し、同じくその他に含めている、未払消費税等が37百万円減少しているものの、その他としては149百万円増加したことが要因となります。減少要因として、支払手形及び買掛金が111百万円、1年内返済予定の長期借入金が7百万円、未払法人税等が80百万円、賞与引当金が119百万円、役員賞与引当金が6百万円、それぞれ減少となりました。この結果、177百万円減少し1,889百万円となりました。

固定負債につきましては、繰延税金負債が958百万円増加し、長期借入金が3百万円減少した結果、954百万円増加し1,724百万円となりました。

### (純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は14,668百万円(前事業年度末比2,679百万円の増加)となりました。

増加要因として、利益剰余金が562百万円増加となり、その他有価証券評価差額金が保有しております投資有価証券の時価変動の影響により2,093百万円増加となりました。その他、自己株式の処分に伴い、その他資本剰余金が10百万円増加しております。

なお、自己株式が13百万円減少しておりますが、「信託型従業員持株インセンティブ・プラン」による減少が10百万円、2019年6月21日開催の第60期定時株主総会において、譲渡制限付株式報酬制度を決議しており、2020年8月7日に、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分による減少が2百万円となります。

### (自己資本比率)

当第3四半期会計期間末における自己資本比率は前事業年度末と比べ0.7%減少し、80.2%となりました。

自己資本比率は、当社の経営指標の一つとしている、自己資本比率80%以上を、当第1四半期会計期間末は若干下回りましたが、当第2四半期会計期間末と同様に当第3四半期会計期間末は達成しております。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の予想につきましては、概ね計画通りに推移しており、現時点では、2020年5月14日付「2020年3月期 決算短信」に公表いたしました数値からの変更はございません。

また、今後、業績に影響を及ぼす事態が生じた場合には速やかに適時開示を行います。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,188,905	5,525,851
受取手形及び売掛金	1,792,955	1,655,848
電子記録債権	584,885	633,494
商品及び製品	427,214	457,272
仕掛品	348,602	358,038
原材料及び貯蔵品	849,292	1,077,974
その他	75,295	50,941
流動資産合計	9,267,150	9,759,421
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,109,898	1,109,898
その他(純額)	771,391	730,180
有形固定資産合計	1,881,290	1,840,079
無形固定資産		
	31,135	27,470
投資その他の資産		
投資有価証券	3,631,377	6,634,876
関係会社株式	0	0
前払年金費用	3,836	9,831
その他	9,611	9,612
投資その他の資産合計	3,644,824	6,654,320
固定資産合計	5,557,250	8,521,870
資産合計	14,824,401	18,281,292
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,282,888	1,171,031
1年内返済予定の長期借入金	23,070	15,350
未払法人税等	238,373	157,377
賞与引当金	260,862	140,996
役員賞与引当金	54,924	48,150
その他	206,871	356,178
流動負債合計	2,066,989	1,889,082
固定負債		
長期借入金	3,290	—
繰延税金負債	763,507	1,721,777
役員退職慰労引当金	2,230	2,230
固定負債合計	769,027	1,724,007
負債合計	2,836,017	3,613,089

(単位:千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,354,094	2,354,094
資本剰余金	2,500,720	2,511,022
利益剰余金	6,049,381	6,611,999
自己株式	△951,432	△937,924
株主資本合計	9,952,763	10,539,192
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,035,619	4,129,009
評価・換算差額等合計	2,035,619	4,129,009
純資産合計	11,988,383	14,668,202
負債純資産合計	14,824,401	18,281,292

## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	5,581,904	6,207,224
売上原価	3,526,196	3,832,683
売上総利益	2,055,707	2,374,541
販売費及び一般管理費	1,054,037	1,104,229
営業利益	1,001,669	1,270,312
営業外収益		
受取利息	489	171
受取配当金	45,290	50,427
損害賠償収入	—	9,000
受取賃貸料	163	246
助成金収入	850	1,182
為替差益	—	8
その他	2,468	2,386
営業外収益合計	49,262	63,421
営業外費用		
為替差損	1,439	—
支払手数料	73	73
営業外費用合計	1,512	73
経常利益	1,049,419	1,333,661
特別利益		
投資有価証券売却益	—	6,500
特別利益合計	—	6,500
特別損失		
固定資産除却損	1,595	0
関係会社株式評価損	4,659	—
特別損失合計	6,254	0
税引前四半期純利益	1,043,164	1,340,161
法人税、住民税及び事業税	240,390	337,244
法人税等調整額	43,961	35,160
法人税等合計	284,352	372,404
四半期純利益	758,812	967,756



## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	受託製品	自社製品	合計
売上高			
外部顧客への売上高	3,008,133	2,573,771	5,581,904
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	3,008,133	2,573,771	5,581,904
セグメント利益	416,409	928,602	1,345,012

## 2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	1,345,012
セグメント間取引消去	—
全社費用(注)	△343,342
四半期損益計算書の営業利益	1,001,669

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## II 当第3四半期累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	受託製品	自社製品	合計
売上高			
外部顧客への売上高	3,478,556	2,728,668	6,207,224
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	3,478,556	2,728,668	6,207,224
セグメント利益	608,283	1,050,352	1,658,635

## 2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	1,658,635
セグメント間取引消去	—
全社費用(注)	△388,323
四半期損益計算書の営業利益	1,270,312

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## (追加情報)

(信託型従業員持株インセンティブ・プランの会計処理について)

## ① 取引の概要

当社は、2017年9月21日開催の取締役会において、当社従業員に対する当社の中長期的な企業価値向上へのインセンティブ付与、福利厚生 の 拡 充、及 び 株 主 と し て の 資 本 参 加 に よ る 従 業 員 の 勤 労 意 欲 高 揚 を 通 じ た 当 社 の 恒 常 的 な 発 展 を 促 す こ と を 目 的 と し て、「信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-Ship®)」(以下、「本プラン」といいます。)の導入を決議いたしました。

本プランでは、当社が信託銀行に「アバールグループ社員持株会専用信託口」(以下「従持信託」といいます。)を設定し、従持信託は、本プランを導入後4年間にわたり「アバールグループ社員持株会」(以下「本持株会」といいます。)が取得すると見込まれる規模の当社株式42,200株を予め取得いたします。その後、従持信託から本持株会に対して毎月当社の株式を売却いたします。なお、従持信託は当社株式を取得するための資金確保のため、当社保証の銀行借入を行っております。

信託終了時点で従持信託内に株式売却益相当額等が累積した場合には、当該株式売却益相当額等が残余財産として受益者適格要件を満たす者に分配されます。当社株価の下落により従持信託内に株式売却損相当額が累積した場合には、当該株式売却損相当の借入金残高について、責任財産限定特約付金銭消費貸借契約書に基づき、当社が弁済することとなります。

なお、当社は、2011年5月に本制度を導入しましたが、本制度が2017年6月に終了したことから再導入するものであります。

## ② 会計処理

当該信託契約に係る会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 2015年3月26日)を適用しております。

## ③ 信託が保有する自社の株式に関する事項

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前事業年度末31,071千円、16,200株、当第3四半期会計期間末20,139千円、10,500株であります。

## ④ 総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

前事業年度末26,360千円、当第3四半期会計期間末15,350千円